

Vinotherapie

9

ボルドー・プリムール1999

シャトー・マルゴー1983-1999

ヴィノテーク創刊20周年

ヴィノテーク2000ワークショップ誌上セミナー

ブルネッロ・ディ・モンタルチーノ・グレート・ヴァンテージ

ピノタージュ/シラーズ/ジンファンデルが集う

1980
2000



Anniversary

Bressan

ユニークさを極めるワイン哲学

ワインは自然な方法で造られなければならない。ワインは強烈な個性を示し、正真正銘の最高品質のものでなければならない。医学の道で学んでいたブレッサン・ネレオは、

自分の情熱がワインに向いたことを悟り、1964年、ワインに対する情熱、愛と信仰により「ブレッサン」を設立したのだと語る。

家業は100年に及ぶ栽培農家。その専門技術を尊び、近代性を完全に排除するワイン造りを決心したのだ、と“教祖様”のような説法でワインを語る。試飲の間もラベルに描かれたエジプト十字の意味することから始まって、ワインの色は葡萄と生命水であることからディオニソスの血、不老不死の霊薬、イスラム文化ではワインは神聖な愛、精神的な知識、永遠性の恵みの飲み物であり、聖書の伝説によると、葡萄は豊饒と生命の象徴、死と再生の神としての歓喜恍惚の酒神祭り……と、しゃべり続ける。

ワインも、ヴィンテージ1999はまだワインではないと試飲には供されず、またワインは冷やしてはならない、と常温で試飲を行った。その方が欠点がみえるという観点からすれば、ぬるくとも、果実味は濃く緊張感があり、酸味もほやけることのない白ワインと、タンニンのあり方にワインの香味が引き締まる赤ワインであった。

ワイナリーはコッリオのエリアに2キロというファツラの区域にあり、従って、葡萄畑も、DOCコッリオとDOCイゾンツォの両方に合わせて24ヘクタール所有している。畑への信念も厳格そのもので、南向きの区画に、葡萄樹



は南北の方向で畝が列をつくっている。栽培品種はトカイ・フリウラーノ、ソーヴィニヨン・ブラン、ピノ・ブラン、ピノ・グリ、メルロ、カベルネ・フラン、カベルネ・ソーヴィニヨン、ピノ・ノワール、スキオベッティーノ、ピニョーロ、モスカート・ローザ、ヴェルデユッツォ、ピコリットである。すべての葡萄樹はクローンを使用、オーストリア、ドイツ、フランス、昔から存在するフリウリの苗を集め研究したものという。畑には草一本生えていない鉄分を含んだ赤い土が耕かされほっくりとしている。「草生栽培は嫌だ。葡萄樹が必要とする成分も草が取ってしまう。それに畑に草を生やすなんて、農業のセンスからいえば怠け者のやることだ」と。除草剤と言っただけで目をむく勢いだったから、草取りをしているのだろう。